

町民芸能芸術祭屈足会場



令和二年度町民芸能芸術祭屈足展示部門が屈足さわやかホールで開催された。

コロナ禍で屈足舞台部門は今年中止。さわやかホールロビーには6団体の力強い作品が展示。

写真＝屈足南小学校児童の絵画「運動会」

今年も残すところ一ヶ月余りとなりました。4月に屈足支所に来てから8ヶ月が過ぎ、地域の皆さんには大分顔を覚えていただけたかと思いますが、あらためてよろしくお願ひします。さて、今年「庚子(かのえね)」の年で、物事の始まりであり、変化が多い年回りとされています。振り返ってみると新型コロナウイルスの「感染拡大の始まり」があり、それに伴う「生活様式の変化」の年になってしまいました。

2月下旬以降、各種の総会や会合、さわやかビールパーティーや秋祭りでのくつたら市などのイベントが軒並み中止となり、小中学校も長期間臨時休校となるなど良くないことが多くありましたが、良いこともありましたので今年の主な出来事について少し振り返ってみてみたいと思います。



「屈足地域の皆さん！お世話になってます」

新得町役場屈足支所長 岡村 力蔵



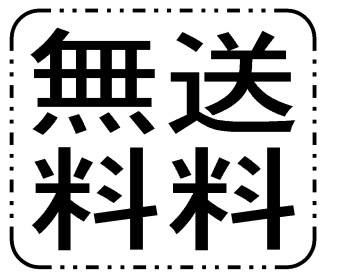
とめております。私も読ませていただきましたが、新たな発見もあり、相当詳細な調査をされたであろう編集委員皆様のご努力を感じたところです。

6月には新型コロナウイルス退散を祈願し、陶芸センターオリジナル「アマビエ」を販売開始しました。メディアにも取り上げられ、「かわい」と評判です。昨年10月29日に発生した交通事故以来、屈足地域の交通事故死亡事故は今年も続いていきます。これからも永久に死亡事故のない日が続いてほしいと願うところです。

このほかにも新岩松発電所の運転開始、ポケモンマンホールの新得駅前広場設置などがあつた1年でした。

来年は「辛丑(かのとうし)」の年です。丑年は「我慢(耐える)」や「発展の前触れ(芽が出る)」を表す年になると言われています。かつては人類初の宇宙飛行や自民党から民主党への政権交代、ハイブリッド車のデビューなど革新的な出来事もありました。

2021年は新型コロナウイルスに耐えて克服し、新たな発展へとつながる希望に満ちた年となることを願っています。



当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。

今読みたい話題作！欲しい本をお取り寄せ！

気軽にお問い合わせください。通販は送料が掛かりますが当販売所は無料です。

※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

「うちち屈足健在所」



佐口 賢人 巡査部長

No.4

「降雪期における事故の防止」

例年、屋根の雪下ろし作業中の転落や、屋根からの落氷雪の下敷きとなる事故。暴風雪による車両立ち往生で命を落とす事故が発生しています。

次のことに注意しましょう。

- 屋根の雪下ろしは複数人で行いましょう。転落防止措置を確実に講じましょう。
- 除雪機を使用した除雪作業時は、作業に適した服装と周囲の安全を確認し、その場を離れる時には、必ずエンジンを停止しましょう。
- 気象情報に注意しましょう。

暴風雪や大雪、吹雪で見通しが悪かったり、道路上の吹きだまりによって車が立ち往生する場合があります。

車内には防寒着や長靴、手袋、スコップ、牽引ロープ等を車載しておきましょう。



道新十一月号の御案内です。



▼ポケットブック11月号「元気なうちに終活」もしものことがあつたとき、家族にはさまざま手続きや届け出が求められます。「財産の相続」「お葬式とお墓」「遺言書とエンディングノート」など、本人そして後を託される家族にとって役立つ情報を盛り込みました。「終活」は、最期まで自分らしく前向きに生きるための取り組みです。

配布済み

十二月ポケットブックは休みです。

ねっとわーく屈足

ねっとわーく屈足電子版

ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで動画も閲覧できます。

ツイッターも屈足の話一杯毎日更新！

じじ-akira1942

連続小説

拾石

赤池 武臣

<第1回>

公休を利用し次男の子、春樹が八月十五日、二つの大きな袋をぶらさげ東京から帰って来た。三年振りの帰省である。

上京する時、どことなくひ弱で頼りなく見えただったが、どうしてどうして他人の飯を三年間食べながらのいで来ただけあつて体格もさることながら、身のこなしや言葉使いがいかに東京人らしくなつた。

「春樹、すっかり立派な大人に成長したじやないか、どこから見ても東京人だ」

私は本音で、そう言った。

「いやあ、何も変わってなんかいないよ。毎日、人にもまれてるだけ。それよりおじいちゃん、おじいちゃんの大好きな戦記物のビデオ沢山買って来たよ。暇な時みたらいい。これ俺からのプレゼント」

そう言いながら、春樹は紙袋の中をがさごさやっていたが、黒いビニールにくるまった別の袋を取り出すと私にさしだした。

すべて実録物で、五巻あつた。それにしてもいつ、どこで自分が戦記物に興味をもっている事を知つたのだろう。

特別、春樹の前にして語つた記憶はない。が、とにかく嬉しかった。

自分の好きな物の一つを知つてくれてくれた事に感激した。

私が実録物に執着するのには、ただ単に勇ましさに魅かれてではない。いま生き残っている次男の正樹をのぞき、二人の男の子を第二次世界大戦で失つていくからだった。

一人はビルマそうしてもう一人、末の真幸は終戦直前、神風特攻隊として散つていった。散つていったと言つても、いまだ二人の遺骨は受け取つていない。戦死を知らせてくれた紙きれがあるだけだった。

「おじいちゃん。折角だから早く見たら」

妻の久子に促され、私は最初に目についた零戦というタイトルのある一つを、春樹に頼みビデオにセットしてもらつた。

懐かしい荒鷲の姿だった。

映像は零戦の真珠湾攻撃から始まり、敵の新鋭機を空中戦で次々と撃ち落とすシーンが続いた。

つづく